

国立民族学博物館研究報告 vol.9-1; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	9
号	1
発行年	1984-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009238

1984・3 9 卷 1 号

国立民族学博物館 研究報告

● 縄文人口シミュレーション———小山修三, 杉藤重信

アチック・ミュージアムのあとに

——財団法人日本民族学協会附属民族学博物館のこと———中村俊亀智

会話場面における人の概念の類型論(Ⅲ)———類型の発達とその機構———吉田集而

カザフの木工調度———その接着・接合について———木村法光

フアラタの地縁組織———サモア社会における称号システムの事例研究———山本真鳥



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

9 卷 1 号

1984年3月

目 次

縄文人口シミュレーション	小山 修三..... 1
	杉藤 重信
アチック・ミュージアムのあとに	
——財団法人日本民族学協会附属民族学博物館のこと——	中村俊亀智..... 41
会話場面における人の概念の類型論(Ⅲ)	
——類型の発達とその機構——	吉田 集而..... 59
カザフの木工調度	
——その接着・接合について——	木村 法光.....133
ファレアタの地縁組織	
——サモア社会における称号システムの事例研究——	山本 真鳥.....151
彙 報191
国立民族学博物館研究報告寄稿要項194
国立民族学博物館研究報告執筆要領195

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 9 No. 1

March 1984

KOYAMA, Shuzo	A Study of Jomon Population	1
SUGITO, Shigenobu	—Computer Simulation Analysis—	
NAKAMURA, Shunkichi	On the Ethnological Museum of Japan	41
YOSHIDA, Shuji	Typology of Person Category in Deixis (III) —Development of Types and Its Mechanism—	59
KIMURA, Norimitsu	Wooden Furniture among the Kazakh —A Comparative Ethnological Study of Techniques of Joining—	133
YAMAMOTO, Matori	Territorial Organization of Faleata—A Case Study of the Title System in Samoan Society—	151

彙 報

(昭和58年10月～
昭和58年12月)

人事異動

(教育職) (採用)

10月1日 第五研究部助手 山本泰則(大阪大学大学院基礎工学研究科)

電子計算機運営委員

氏名	任期
及川 昭文	(58. 4. 1～60. 3. 31)
大林 太良	(58. 4. 1～60. 3. 31)
国井 利泰	(58. 4. 1～60. 3. 31)
田中 琢	(58. 4. 1～60. 3. 31)
辻 三郎	(58. 4. 1～60. 3. 31)
長尾 眞	(58. 4. 1～60. 3. 31)
中山 和彦	(58. 4. 1～60. 3. 31)
星 仰	(58.11.16～60.11.15)
山中 光一	(58. 4. 1～60. 3. 31)
吉田 将	(58. 4. 1～60. 3. 31)
佐々木高明	(54. 2. 1～)
中村俊亀智	(58. 4. 1～60. 3. 31)
大給 近達	(58. 4. 1～60. 3. 31)
藤井 知昭	(58. 4. 1～60. 3. 31)
栗田 靖之	(58. 4. 1～60. 3. 31)
小山 修三	(58. 4. 1～60. 3. 31)
杉田 繁治	(58. 4. 1～60. 3. 31)
秦 明夫	(57.11. 4～)

シンポジウム

「西部太平洋地域における海のしきたり」

日 時 昭和58年11月1日(火)～8日(火)

場 所 国立民族学博物館, 東洋紡績総合研究所求是荘

摘 要 漁業制度や海面の所有形態をめぐる諸問題は、ここ10年、海洋人類学の分野で大きな注目をあつめてきた。これらの問題は世界各地の沿岸地域における小規模な漁民社会の理解に不可欠であるばかりでなく、先進漁業国における漁業関係法やとりきめ、国際的な漁

業協定といった海の利用に関する重要な課題との関連が大きい。

本シンポジウムでは西部太平洋地域における海面所有や海のしきたりにかかわる種々の問題をとりあげ討論がおこなわれた。

組織委員会

委員長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

委員

祖父江孝男 国立民族学博物館第一研究部長

佐々木高明 国立民族学博物館第二研究部長

伊藤 幹治 国立民族学博物館第三研究部長

加藤 九祚 国立民族学博物館第四研究部長

岩田 慶治 国立民族学博物館第五研究部長

大島 襄二 関西学院大学文学部教授・国立民族学博物館運営協議員

秦 明夫 国立民族学博物館管理部長

実行委員会

田邊 繁治 国立民族学博物館第二研究部助教授

秋道 智彌 国立民族学博物館第二研究部助手

ケネス・ラドル 国立民族学博物館第五研究部助教授

須藤 健一 国立民族学博物館第四研究部助手

伊東 一郎 国立民族学博物館第三研究部助手

磯村 紘 国立民族学博物館管理部庶務課長

湯浅 叡子 民族学振興会千里事務局長
宇治日出二郎 民族学振興会千里事務局事業課長

参加者

John CORDELL カリフォルニア大学(バークレー) 自然資源部教授
 Richard E. JOHANNES CSIRO (Commonwealth Scientific and Industrial Research Organization) 漁業・海洋学部門研究員
 Arne KALLAND オスロ大学東アジア研究所助教授
 Richard B. POLLNAC ロードアイランド大学社会学・人類学部助教授
 Nicholas POLUNIN パプアニューギニア大学生物学部助教授
 秋道 智彌 国立民族学博物館第二研究部助手
 石光 亨 神戸大学経済学部教授
 大島 襄二 関西学院大学文学部教授
 大塚柳太郎 東京大学医学部助教授
 嘉田由紀子 滋賀県琵琶湖研究所研究員
 吉良 竜夫 滋賀県琵琶湖研究所長
 崎山 昭治 国際大学国際経済科教授
 須藤 健一 国立民族学博物館第四研究部助手

松田 恵明 鹿児島大学水産学部助教授
 ケネス・ラドル 国立民族学博物館第五研究部助教授

日程

11月1日(火) (千里阪急ホテル)
 受付
 11月2日(水) (国立民族学博物館)
 国立民族学博物館見学
 開会式
 第1セッション
 11月3日(木) (国立民族学博物館)
 第2・3セッション
 11月4日(金) (国立民族学博物館)
 第4セッション
 11月5日(土)
 京都観光
 11月6日(日) (求是荘)
 琵琶湖における漁業の見学
 特別講演
 第5セッション
 11月7日(月) (求是荘)
 第6・7セッション
 閉会式
 11月8日(火) (H. レークビワ)
 ワークショップ

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
福井 勝義	助教授(第3研究部)	58.10.3	58.12.13	ケニア, スーダン
松山 利夫	助教授(第1研究部)	58.10.9	58.11.23	台湾, 大韓民国
宮本 勝	助手(第3研究部)	58.10.10	59.1.7	フィリピン共和国
和田 正平	助教授(第3研究部)	58.10.15	58.12.3	ケニア, タンザニア
江口 一久	助教授(第3研究部)	58.10.20	58.12.20	カメルーン
栗田 靖之	助教授(第2研究部)	58.10.26	58.11.18	インド, ブータン
吉田 集而	助教授(第2研究部)	58.10.27	58.12.7	パプアニューギニア
和田 祐一	教授(第3研究部)	58.10.27	58.12.7	パプアニューギニア
ケネス・ラドル	助教授(第5研究部)	58.11.15	58.11.22	大韓民国
石毛 直道	助教授(第4研究部)	58.11.15	58.11.26	大韓民国
松原 正毅	助教授(第2研究部)	58.11.16	58.11.20	中華人民共和国
佐々木高明	教授(第2研究部)	58.11.16	58.11.20	中華人民共和国
梅棹 忠夫	館長	58.11.27	58.12.11	中華人民共和国

彙 報

ケネス・ラドル	助教授 (第5研究部)	58.12. 4	58.12.17	インドネシア共和国, フィリピン共和国
君島 久子	教授 (第1研究部)	58.12.20	58.12.26	香 港

来 館 者 抄

10月1日	Bambang SUMADIO (インドネシア共和国, 国立博物館長)	8日	中国日本問題研究者訪日代表团 何 方 (団長)
4日	David OLDROYD (オーストラリア連邦, ニュー・サウス・ウェールズ大学)		戴 有 振
8日	Robert L. SPROULL (アメリカ合衆国, ロチェスター大学長)		何 倩
13日	Teuku JAKOB (インドネシア共和国, ガジヤマダ大学長)		王 琥 生
14日	Tiberiu GRAUR (ルーマニア社会主義共和国, ルーマニア博物館長)		杜 江
20日	Pimentel GURMENDI Victor Armando (ペルー共和国, 国立人類学・考古学博物館長)		姜 孝 若
25日	多田道太郎 (京都大学人文科学研究所教授)		徐 楓
	Charles L. BLANC (カナダ, モントリオール大学東アジア研究所長)		孫 継 武
28日	洪 雄 善 (大韓民国, 徳成女子大学長)		盛 継 勳
11月4日	中国内蒙古・北方騎馬民族文物展代表团 文 浩 (団長)		金 明 善
	金 楓		彭 晋 璋
	阿 日 鯨	8日	René SIEFFERT (フランス共和国, 国立東洋言語文化研究所教授)
	季 逸 友	10日	Emmanuel de Roy LADURIE (フランス共和国, Collège de France社会科学高等研究院研究指導教官)
	林 叔 猛	14日	小川 芳彦 (関西学院大学教授)
5日	Graham S. PARK (ニュージーランド, オークランド博物館長)	15日	楊 廷 智 (中国, 民族文化宮副主任)
			三隅二不二 (大阪大学人間科学部長)
		16日	篠遠 喜彦 (アメリカ合衆国, ビショップ・ミュージアム館長)
		17日	王 祖 望 (中国, 中国社会科学院情報研究所教授)
		12月23日	小山 鐵夫 (アメリカ合衆国, ニューヨーク市立大学教授)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえで、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

- 1964 *Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.*
In Eric H. Lennenberg (ed.), *New Directions in the Study of Language*,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 *Social Structure in Southeast Asia.* Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 *The Rites of Passage.* M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 9 卷 1 号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

加 藤 九 祚

〔編集委員〕

伊 東 一 郎

ケネス・ラドル

杉 村 棟

竹 村 卓 二

友 枝 啓 泰

垂 水 稔

長 野 泰 彦

藤 井 龍 彦

松 澤 員 子

和 田 正 平

昭和 59 年 3 月 31 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 9 卷 1 号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市千里万博公園 10-1

TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.9 no.1
March 1984

- KOYAMA, Shuzo A Study of Jomon Population
SUGITO, Shigenobu —Computer Simulation Analysis—
NAKAMURA, Shunkichi On the Ethnological Museum of Japan
YOSHIDA, Shuji Typology of Person Category in Deixis (III)
 —Development of Types and Its Mechanism—
- KIMURA, Norimitsu Wooden Furniture among the Kazakh
 —A Comparative Ethnological Study of
 Techniques of Joining—
- YAMAMOTO, Matori Territorial Organization of Faleata
 —A Case Study of the Title System in
 Samoan Society—

ISSN 0385-180X



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151